昭和60年11月11日第三種郵便物認可　毎月１回１日発行

HOLSTEIN
ホルスタイン通信

2014-2

平成26年２月１日発行　通巻第７１８号
発行所　北海道ホルスタイン農業協同組合
〒001-8555 札幌市北区北15条西5丁目
電話 011-726-3111 FAX 011-726-3135
ホームページアドレス http://www.holstein.or.jp
発行人　専務理事　齋　藤　眞　澄
編集者　参　事　柾　谷　智　史

主な項目

◆ 第８回乳牛改良・審査のサクセッサープログラム　…… ３頁
◆ 翻訳：infoHOLSTEIN〔ゲノミクス：それは唯一無二の道具か？‥〕…… ４頁
◆ 米国におけるゲノミック選抜を利用した乳牛改良状況の視察　… ６頁
◆ The Royal 第42回組合員海外酪農視察研修　…… 10頁

平成25年度
第46回 宇都宮賞 表彰者決定

表彰式:平成26年3月1日(土) 会場:札幌パークホテル

宇都宮仙太郎翁顕彰会（理事長：北　良治）では、かねてから選考中の平成25年度表彰者について、１月９日に理事会・評議員会を開催し、酪農経営の部に由仁町 細田治憲さん、酪農指導の部に興部町 近藤三男さん、乳牛改良の部に大樹町 角倉了一さんの三名を決定しました。ここに、表彰が決定されたご三方の功績を紹介いたします。

酪農経営の部
由仁町 細田治憲さん

酪農指導の部
興部町 近藤三男さん

乳牛改良の部
大樹町 角倉了一さん

酪農経営の部：由仁町 細田治憲さん

細田治憲さんは、昭和39年に酪農学園大学を卒業後、昭和41年アメリカでの酪農実習を開始したが、兄が急逝したため翌年に帰国し経営（恵庭市）を継承しました。

平成元年、恵庭市から乳牛150頭とともに由仁町に牧場を移転し「酪農は耕地面積に見合った規模が大切である」という信念のもと、高品質粗飼料確保のためアルファルファを積極的に栽培し、コーンサイレージも通年給与するなど土づくり草づくりに努力するとともに、経産牛についてはフリーストール牛舎で管理するほか、放牧地も整備しカウコンフォートを重視した経営に努めております。

一方で、乳牛改良にも積極的に取組み、第５回及び第６回全日本共進会において母系統群でそれぞれ名誉賞及び優等賞を受賞し、現在においてもこれらの基礎牛から後継牛を輩出しております。

結果として、平成５年には総頭数210頭、経産

牛110頭、耕作面積55haの経営規模となり、平成10年には販売出荷乳量で1,050ﾄﾝを達成して以来、1,000ﾄﾝを超える規模を維持しております。

現在、経産牛１頭当たり平均乳量は、10,091kg、乳脂率3.98%、乳蛋白率3.32%であり、牛群平均産次は3.2と長命連産の酪農経営を展開しております。

平成16年には、自家生産の生乳を原料にした乳製品（アイス）販売部門を牧場敷地内で開始し、消費者とのふれあいを大切にする「生産から加工・消費まで」の６次産業化を取り入れた経営を展開し、その立役者として今後の家族酪農のモデル経営を確立しております。

酪農指導の部：興部町　近藤三男さん

近藤三男さんは、昭和43年に高校を卒業後、牧場実習を経て後継者として酪農に従事されました。昭和57年からは農協青年部長を、昭和63年に興部町農協理事、平成９年には営農委員長に就任し、組合員の負債対策の取組みや経営収支の改善に取り組むなど農家経営の安定向上と地域酪農振興に尽力された貢献は多大なものがあります。

当時、興部町の酪農家が抱える課題として労働力、コスト、自給飼料、個体乳量の問題があり、この解決に向け平成11年に㈲オコッペフィードサービスを設立し、その成果として牧草調整の共同化による労働負担の軽減、機械の共同所有によるコストの低減、更に個人が所有するほ場を一括管理して自給飼料を生産して宅配するという、これまでに前例のない仕組みを考えて進められました。この方式は、自給粗飼料を主体にした北海道で初めてのＴＭＲセンターのモデルとなり、全道各地で同様な取り組みが進められるなど、その功績は多大なものがあります。５戸で始めた取組みはその後10戸に拡大し、事業規模も当初の260haから575ha、サイレージ総量は5,000ﾄﾝから11,750ﾄﾝに増え、構成員の平均年間出荷乳量も430ﾄﾝから735ﾄﾝへ向上するなど、センターの構成員の経営改善に大きく貢献しております。

更に、平成17年にはＴＭＲセンターの運営だけでなく、育成牛の個体差を無くし高位平準化させるために㈲ファーイーストファームを設立し、育成牛の飼養管理時間や費用の軽減をしながらも健康で良質な後継牛の生産にも大きく貢献しております。

平成18年には、道内各地に設立されたＴＭＲセンター間の生産・運営技術の向上と情報交換の場として「北海道ＴＭＲセンター連絡協議会」を立ち上げ、初代会長に就任するなど、本道酪農振興に極めて大きな役割を果たしております。

乳牛改良の部：大樹町　角倉了一さん

角倉了一さんは、昭和46年３月帯広畜産大学草地畜産専修科を卒業後、２年間の研修を終え経営に参画しました。当初から乳牛改良、特に体型レベルの向上に努め、飼養管理が容易で長持ちする牛群づくりを目指して牛群検定や牛群審査を積極的に実施するとともに、共進会や牛飼い仲間の改良同志会の活動にも参画し、その成果は全日本ホルスタイン共進会において６回連続出場を含む７回の出場となる偉業を達成し、中でも、平成２年第９回熊本全共においては自家産経産牛２頭がそれぞれ優等賞首席を受賞したことは特筆すべき点であります。

全道共進会においては、過去32回出場し、１等賞受賞21頭という秀でた成績を収めるなど常に乳牛改良の先導者の一人として活躍され続けております。

経産牛１頭当たり平均乳量は9,826kgと、過去10年間で9,500kg以上を維持し続け、牛群審査においては平均得点83.7点を記録し、過去38頭のエクセレント（90点以上）牛を生産するとともに、平均産次3.4産と長命性に富んだ牛群づくりを実践している。2013年８月公表の雌牛遺伝評価値ＮＴＰ全国トップ10%以内には７頭が入るなど体型・能力のバランスのとれた牛群を作り上げております。

これらの改良の成果から、数多くの種雄牛を輩出し、特にスミックランド フリー トレジャーは2009年種雄牛遺伝評価において２期連続ＮＴＰ１位となり、体型的には乳器の改良に貢献するなど、乳牛改良に大きな成果を収め、本道酪農振興に多大な貢献をされております。

３月１日㈭札幌パークホテルに於いて、顕彰会会員を始め多くの関係者の方々にご出席を賜り、表彰式を執り行うとともに表彰者をお祝いする記念の祝賀会を開催するはこびとなっております。

第８回(前期)乳牛改良・審査のサクセッサープログラム

平成26年1月7日(火)～10日(金)

オリエンテーリング　自己紹介

酪農知識の向上と乳牛審査技術習得を目的とし、次代を担う酪農後継者を対象に「第８回 乳牛改良・審査のサクセッサープログラム」を開催しました。

今回のプログラムは、従前より当組合と酪農学園大学が締結していた“包括的連携と協力に関する協定”に、平成25年度より（一社）ジェネティクス北海道と(公社)北海道酪農検定検査協会が加わった４者の協定により、各団体が持つ分野においてより現場に近い位置で技術の展開を実践しているスペシャリストを講師に配し、酪農学園大学の施設ととわの森三愛高校牛舎・飼養牛を利用させていただき開催しました。

開講式では、当組合の柾谷参事から挨拶があり、その後オリエンテーションと各受講者の自己紹介が行われ、酪農学園大学の高橋 茂教授氏と長浜愛主任による「共進会の出品準備と心構え」の講義をは切りに１月７日から10日の４日間に亘って前期プログラムの集中講習が始まりました。

前期プログラムの講習内容は

①「共進会の出品準備と心構え」
　講師：酪農学園農食環境学群循環農学類
　　教授　高橋　茂 氏
　酪農学園大学付属農場
　　主任　長浜　愛 氏

左:高橋教授 右:長浜主任による「共進会～」講義

②「登録の重要性について」
　講師：当組合登録部主幹　小平　諭

③「乳牛の主な疾病と予防対策」
　講師：酪農学園大学獣医学群獣医学類
　　教授　小岩正照　氏

④「ホルスタイン種雌牛審査標準と線形審査法」
　講師：当組合審査部長　千葉義博

⑤「交配種雄牛選定のポイント」
　講師：(一社)ジェネティクス北海道
　　改良部改良課長　藤田　功 氏

⑥「検定業務と検定情報の見方について」
　講師：(公社)北海道酪農検定検査協会
　　乳牛検定部検定課主任　大屋　啓 氏

⑦「北海道における新たな牛群検定システムの取り進めについて」
　講師：(公社)北海道酪農検定検査協会
　　乳牛検定部電算課主任　中川智史 氏

⑧「北海道における衛生乳質の現状について」
　講師：(公社)北海道酪農検定検査協会
　　生乳検査部検査課長補佐　鈴木利則 氏

⑨「体型審査技術研修」
　講師：当組合審査部

今回で８回目の開催となるこのプログラムは、カリキュラムの熟成化が進み酪農業の担い手育成に少なからず貢献していると自負するものであり、過去の受講生たちは牧場の後継者として、あるいは酪農業界のスペシャリストとして活躍しており、地元や全道のショウにおいては若きリーダー的存在となりリードマンとしての雄姿も見せています。今回受講の19名は、既に後継者としてキャリアを積み重ねている方や自分の具体的な将来像を描きつつある方々で、生涯で“一番伸び盛れる”であろう年頃にあり、本プログラムはともかくもこのような機会に積極的に参加し知識と技術の習得を図り我が身の力にしていただきたいと望みます。

4日間の講習で受講者同士の交流も進み、お互いの意見や情報交換の場としても貴重な体験が出来たであろうことが窺えるなか、前期講習が滞りなく修了しました。

受講生の皆さん！、今夏に開催する後期研修で、共に勉強した仲間たちと再会しましょう。

頑張れ、若きわれらの仲間たち！！

本プログラムの開催にあたりましては、各段のご協力と共催をいただいた酪農学園大学、(一社)ジェネティクス北海道、(公社)北海道酪農検定検査協会の各団体ならびにスタッフの皆様方に厚くお礼申し上げます。　(JHBS管理部長　城丸)

後期プログラムは今回の受講者を対象に
①「乳牛の遺伝評価とその活用方法について」
講師:当組合改良部長　河原孝吉
②仮題「共進会ジャッジとしての留意点」
「共進会ジャッジのマナーと講評の仕方」
「共進会ジャッジ講評実技研修」
「ショウーマンシップと出品技術」
「共進会ジヤッジに関するディスカッション」
講師:アメリカ　カルフォルニア工科大学
スタン・ヘンダーソン教授
などの講義を8月5日(火)～8日(金)の日程で予定しております。

第8回(前期)乳牛改良・審査のサクセッサープログラム受講者名簿

管内	市町村	氏　名	管内	市町村	氏　名
石狩	札幌市	福井　允二	石狩	江別市	牧田　優美
石狩	札幌市	輪　島　寛	石狩	江別市	水野　智貴
石狩	江別市	大屋　裕彦	石狩	江別市	山岸　美咲
石狩	江別市	長井信之助	十勝	大樹町	前田　竜志
石狩	江別市	市川　敏孝	網走	遠軽町	情野　祐樹
石狩	江別市	伊藤耕史郎	宗谷	稚内市	鎌仲　優也
石狩	江別市	浦山　大地	宗谷	稚内市	工藤　将太
石狩	江別市	金曽　秀則	宗谷	稚内市	白崎　紘希
石狩	江別市	城　　拓也	石狩	札幌市	工藤　竜太
石狩	江別市	高山　　恵			

(敬称略)

info Holstein

ゲノミクス：それは唯一無二の道具か？

あなたの繁殖戦略が遺伝子の販売に重点が置かれているのか、或いは、単にトップレベルの牛群を達成することに置かれているのか、またはその中間なのかに拘らず、現在、すべての生産者はゲノミック検査の結果に基づいてより若い年齢でそれぞれの牛の遺伝的潜在能力を正確につかむ経済的な方法を手に入れている。それらの期待能力の正確性を高めるためには、自分の牛群でより多くの情報に基づいた飼養管理や市場性、そして、遺伝的な決定ができるよう個々の牛のより完全な実像をつかむために他の形のデータも使うことが重要である。

動物は固有のDNAをもって生まれ、それは一生変わることはない。従って、すべての雌子牛のゲノミック検査を実施し、その結果にだけ基づいて決定を下すことができる。これって正しい？

NO：“先天性と後天性”の概念について、考えていた学生時代を思い起こしてください。古来ある論争に対するあなたの考え方に拘らず、ゲノミクスは双方に作用する場合が確かにある。動物は固有のDNAをもって生まれ、潜在的な能力を持っている（**先天性**）。しかし、その動物がどう育ったか、すなわち、何を食べ、どのような牛舎に飼われ、病気になったかどうか、そして何乳期泌乳したかなどは、その牛が完全なる潜在能力を発揮できるかどうか、これら全てのことが関わってくる（**後天性**）。　このことが登録と検定、そして、もちろん体型審査にも参加することが重要であるという正にその理由である。

ゲノミックによる期待能力は70％の正確性で

ヤングブルの長所や欠点を評価する。しかし、それらの評価値の正確性をどのように検証すべきだろうか？　それには体型審査員によって付けられた数頭の娘牛の体型得点が必要です。同様に、ゲノミック検査を受けた雌牛は、それによって次世代に伝達するための望ましい遺伝子を持つかどうかの指標を提供することになる。

あなたが生体か受精卵の形での遺伝子の市場性に最も焦点を当てるのか、あるいは単に最も儲かるように牛乳を生産することに焦点を当てるのかに拘らず、より儲かる飼養管理の実現のため、ゲノミック検査と表型記録（体型審査）の両方を利用してバランスよく目標にアプローチしていくことが重要である。ゲノミクスは、次世代に期待できるものを表しており、将来役立つものである。娘牛の体型審査は、ヤングブルのゲノミック評価が役立つことの検証となる。現在いる牛の完全なる実像をつかみ、将来の世代のために体型審査とゲノミックスの双方をうまく利用する必要がある。

本当か間違いか？

“私はゲノミックヤングサイアーに限って使い始めました。授精師は私の未経産牛の「審査」をしてくれるので、今後はホル協のサービスに金を払って利用する必要もありません。”
間違いです。：表型の記録、すなわち、体型審査と検定記録は、絶えず雌牛の遺伝期待値の信頼度を高めている。GLPIの変化の範囲は最大±350であるが、自身のBV値に産乳能力記録と体型審査記録が含まれると若雌牛の40％は125LPIまでの変化にとどまる。体型審査された若雌牛の体型評価値の変化は±５ポイント（１標準偏差）である。検定記録を持つ若雌牛のたんぱく質量の評価値の変化は±23kgである。さらに重要で知っていてもらいたいことは、ホルスタイン協会によらない体型評価は遺伝的評価ではなく、将来の参考や利用に耐えられるものではない。カナダではホルスタイン協会の体型審査員によって行われる体型評価が唯一の公式な評価である。

Do you know・・？

- 2008年にホルスタイン雌牛でゲノミック検査を始めた当時、このサービスに参加した登録農家はわずか１％でした。今日2013年には登録者の12％がゲノミック検査を利用している。
- ゲノミクスは娘牛の受胎率や牛群寿命のような遺伝率の低い形質における期待値の正確性を高める。
- ゲノミクスは世代間隔を劇的に短縮し、今日、ヤングゲノミックブルの90％は未検定済の雄牛が父牛となっている。

（カナダ：info HOLSTEIN, 2013.10-11より
翻訳：副参事　藤澤）

□□ 人事発令 □□

発令事項	氏名	前職
（定年退職）		
平成26年１月31日付		
定年により職を解く	松井義雄	登録部証明担当次長兼証明課長
（嘱託職員）		
平成26年２月１日付		
嘱託職員・登録部証明課審査役を命ずる	松井義雄	
（異動）		
平成26年２月１日付		
登録部証明課長兼務を命ずる	渡邊時三	登録部長兼総務部経理課長

連載

米国におけるゲノミック選抜を利用した乳牛改良状況の視察

2．最新のSNP検査とGヤングブル生産の現場を視察する

最新のSNP検査の実態

今回の視察ではGenetic Visions（以下、GV社という）を訪問先に加えることで、米国におけるSNP検査の実態を調査しました。GV社は、25年前に米国のAI事業体の一つ、Tri-State Breeders（現在のAccelerated Genetics：以下、AG社という）傘下の遺伝子型検査所として設立されました。設立当初は、ウイスコンシン大学の協力によりプロテイン等の分析を主に行っていたそうですが、最近になってSNP検査の依頼が増加するようになりました。この研究所はウイスコンシン州マジソン郊外、ミドルトンという町にあり、サンプルの配送面で流通や交通の立地条件がよいところです。GV社の収益は検査料金のみ、国等からの補助は一切受けていないとのことです。ここで案内をしてくれた担当者は、ジェネラルマネージャーのCowan博士です。SNP検査のスペシャリストはCowan博士を含め３名、さらに１台のシークエンサー（SNPを探索するためのスキャナー）で、毎月600件のサンプルをSNP検査しています。

写真１．３名のテクニシャンが作業するGenetic Visionsの検査室の風景

SNP検査の殆どはヤングブル

SNP検査用サンプルは、酪農家からの申し込みは少なく、AI事業体から送付されるものが殆どです。毎月600頭のSNP検査の内、500頭はヤングブルのサンプル、未経産牛の検査依頼は100頭程度と少ないそうです。GV社が分析するサンプルは、AG社からのサンプルだけでなく、精液販売の競争相手でもあるCRI（Cooperative Resources International）やABS社（ABS Global）のようなAI事業体からも受け入れています。また、ヤングブルを検査する場合、昨年までは必ずAI事業体を経由する必要がありましたが、今年からはその制限が緩和され、ヤングブルも生産者から直接申込みができるようになりました。しかし、SNP検査は、今のところAI事業体からの申込みが多いそうです。

50kチップはもう使っていない

GV社で分析に使用しているサンプルは、約90%が毛根です。それ以外に血液や精液が多く、耳パンチのサンプルは殆ど扱っていないとのことです。耳パンチのサンプルの多くは、米国ホルスタイン協会を通じて、ファイザーの子会社がSNP検査しているようです。毛根サンプルは、50～100本もあれば十分とのことであり、これは日本の場合よりも毛根数が少なくて済みます。血液でもSNP検査は可能ですが、双子には利用できないので、やはり毛根の方が扱い易いそうです。

分析対象のSNPチップは、LDと80kの２種類。検査料金はLDで45ドル、80kで125ドル、現在のレートで換算すると日本より格安です。現在のMDは、すでに50kから80kチップに置き換わっています。80kチップ（GGP-HD）は、50kのSNP情報にHDの中から選ばれた30kが追加されたものです。80kチップは、イルミナ社とUSDAが共同で開発したカスタムチップです。日本

写真２．最新のMDチップ（GGP-HD）、これで80kのSNP検査ができる

は、ようやく雄雌両方のSNP検査を50kチップで開始しましたところですが、米国ではさらに先を進んでいます。また、LDチップは、９ｋ（GGP-LD)を利用していますが、これも日本ではまだ利用されていないチップです。

3日でSNP検査

毛根サンプルからDNAが抽出され精製された後、次にイルミナ社製のシークエンサーでSNP情報が読み取られ、コンピュータ処理によってSNPの型判定(タイピング)が行われます。１日で約200件の処理を行い、SNP情報の型判定がわかるまでの作業は３日間かかるそうです。また、ホルスタインの他にエアシャー、ブラウンスイスおよびジャージーのSNP検査も受け付けています。シークエンサーによるSNPチップのスキャンを行う時間は、48サンプル当たりLDで20分、80kで45分かかります。ここで、48サンプルというのは、１枚のチップでSNPの型判定を行うことのできる最小のサンプル数(または個体数)のことです。SNP検査の後に残ったDNAは-20℃で半永久的に保存され、再検査やその他の検査等に利用されます。親子判定は、可能な範囲で実施しているとのことです。

写真３．DNAの抽出・精製。SNPチップを利用し、シーケンサーで精製したDNAをスキャンする

写真４．残ったDNAは－20℃で保存、再検査等に利用される

SNPデータはAIPLで正式に管理されますが、GV社でも自社で検査したSNPデータを管理しているそうです。AIPLにSNPデータを送付した後、しばらくするとG評価された結果がGV社に戻ってきます。GV社では、G評価値の結果を帳票にまとめ、SNP検査の申請者に対してG評価成績を提供しています。

受精卵のG評価は無理

受精卵のSNP検査は可能かと言う質問をしましたが、DNAの抽出量が非常に少ないため、検査精度が低く、今のところ正確なSNPを特定するのは無理なようです。Cowan博士も受精卵からのDNA抽出を何度か試みたそうですが、十分なDNA量を確保できなかったとのことです。それ故、受精卵のG評価はしばらくの期間、行うことができないと思われました。

Gヤングブルの生産現場

今回の視察では、G選抜を利用した大規模な育種集団を造成しながら種雄牛を生産しているCRIを調査の一つに加えました。CRIは生産者による組合組織という経営形態をとる米国内でも大手のAI事業体です。昨年の総販売実績は１億6,500万ドルでした。CRIは検定データ等の収集を行うAgSourceと種雄牛生産から精液販売の事業を行うGenexの二つの部門から構成され、データ収集から精液の販売まで一貫した育種事業を展開しています。G評価が公表されて以来、乳牛における米国の種雄牛生産の形態は大きく変わりました。米国のAI事業体は、ブリーダーから種雄牛をサンプリングするという従来のやり方だけでなく、自ら大規模な中核育種集団を造成して種雄牛を生産する方向に変化しようとしています。CRIで我々を迎えてくれたのは、アジア東欧地域担当の国際市場開発部次席Stratton氏と乳牛の遺伝改良担当次席のCoburn氏でした。

AI事業体自ら、雄牛生産のための牛群づくり

ジェネシス(Genesis)計画とは、中核育種集団(ドナー集団またはエリートカウ集団)を造成し、G選抜と最新の繁殖技術を応用して、強い選抜と短い世代間隔で世代交代を繰り返しながら、優秀な種雄牛を作出していく育種計画です。この育種

計画は、17戸の協力農家に在籍する45,000頭以上の雌牛集団を使用します。G評価成績のような情報を利用して特に優秀な300頭の雌牛を選び、これを中核育種集団と位置付けます。この300頭は、より若い時期に多くの子孫を残すために最新の繁殖技術を利用して採卵します。具体的にはOPU(経膣採卵)、IVF(体外受精)およびET(受精卵移植)を実施し、中核育種集団から年間約3,500個の受精卵を採卵・移植し、さらにドナー牛自らが分娩した子牛を含め、合計約1,000頭の雄牛を確保します。それらの中からG評価成績を基に80〜100頭の雄牛を選抜、Gヤングブルとして一般供用を開始します。ジェネシス計画の中核育種集団は、年々遺伝的レベルが高くなっています。NM$のトップ5%に入る雌牛は2009年に49頭でしたが、2010年から2012年にかけて各々69頭、199頭および255頭に増加しているそうです。

ジェネシス計画の牛群に属する雌牛は、約80の母方系統によって構成されています。それぞれの系統の特徴は、米国内の遺伝子市場がどのように変化していくか判らないし、異なる改良目標を持つ海外市場の状況やその変化に対応できるように、特徴のある系統を揃えているそうです。各ファミリーは、近交係数を急激に上げないように工夫しながら、保存しているそうです。

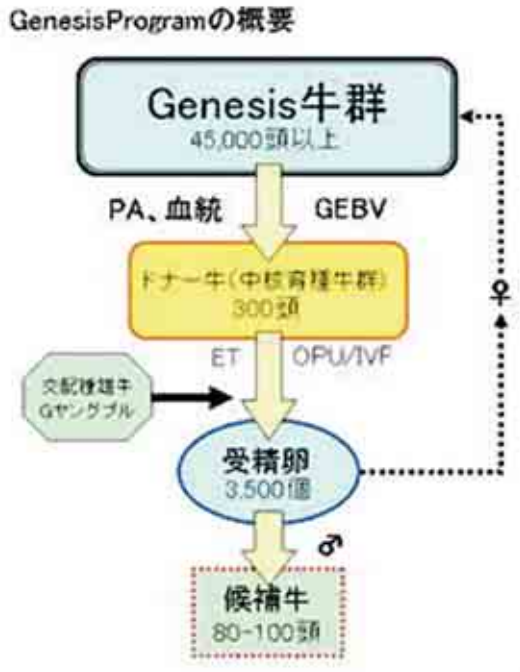


図1．CRIのジェネシス計画、17戸の協力農家45,000頭の雌牛集団を利用した大規模な種雄牛生産プログラム

後代検定とG選抜を併用して種雄牛生産

CRIでは、現在、G選抜と後代検定を併用した手法で種雄牛を選抜し、精液を販売しています。併用とは言ってもCRIにおけるGヤングブルの販売精液は年々増え続け、現在では国内の販売精液の70%を占めるまでになりました。米国全体では販売精液の50%がGヤングブルなので、CRIのGヤングブルの比率は米国平均よりも高いことになります。種雄牛は、ジェネシス計画で生産されたものとブリーダー等から導入したものが半々を占めています。米国では、G評価成績が公表されて以来、成績の極度に優れたGヤングブルの価格が高騰しています。また、G評価成績の高い未経産牛の価格はヤングブル以上に高騰していることもあり、自前の牛群(ジェネシス牛群)で種雄牛を生産するという動きは必然的に生じた結果と考えられます。

CRIでは、3ヵ月齢で雄子牛のG評価を実施、12ヵ月齢から採精、15ヵ月齢から後代検定協力牛群に精液を配布するとともにGヤングブルとして精液を販売しています。本牛(種雄牛)が30ヵ月齢近くになると多くの娘牛が生産されてきますので、その分娩状況とG評価成績を確認しながら、さらに精液販売を行います。しかし、最近、現場の要望等からGヤングブルの積極的な精液販売の時期が早くなっているそうです。後代検定だと種雄牛は60ヵ月齢まで完全待機しますが、ゲノム選抜を組み合わせるとその半分以下の30ヵ月齢以下から精液を本格的に販売できます。これは、雄牛と娘牛の世代間隔が急激に短縮されることを意味します。

G評価成績には一定の信頼性がある

G評価成績はSNP情報から後代検定済の評価成績を間接的に予測したものですから、G評価成績の信頼度は、後代検定済評価成績の信頼度を越えることはありません。しかし、G評価成績の信頼性が少しでも高いのであれば、それに越したことはありません。それについてもColburn氏が説明してくれました。G評価成績が公表されて4年が経過し、当時G評価成績しか持たなかったヤングブルが後代検定済になり始めています。そこで、2010年8月評価の時点でGヤングブルであったが、2013年8月評価の時点で後代検定済の評価成績を

持つ種雄牛だけを抽出し、それらの差の平均値を計算してみました(表１)。

表１．G評価成績と後代検定済成績との差

NM$	TPI	乳量	乳タンパク質量	生産期間	決定得点	乳器
-45	-22	-24	-0.5	-0.8	-0.23	-0.15

※ 2010年８月のG評価と2013年８月の検定済評価
※ 泌乳形質は娘牛40以上を持つ種雄牛4,233頭、体型形質は娘牛10頭以上を持つ種雄牛3,179頭で集計

全体的には、G評価成績が過大推定されているため、差の平均値はマイナス値になっていますが、それらは大きな差ではありません。AIPLのWiggans博士は「G評価成績の計算は絶えず改善され、徐々に信頼性が向上している」と言っていましたが、CRIでもG評価成績に対して一定の信頼性を認めるようになってきているようです。

G選抜による改良量は52%向上

年当たりの改良量は、世代間隔、選抜圧および選抜の正確度に依存します。G選抜は、多少信頼度の低いG評価成績を使用しても世代間隔を短縮することで改良速度を向上させることができるのが特徴です。その理論を具体的な数値を示しながらCoburn氏に説明してもらいました。

表２．種雄牛生産における従来の後代検定とG選抜の比較

	後代検定(2007)			G選抜(2012)		
	信頼度$NM	月齢	親の数	信頼度$NM	月齢	親の数
種雄牛の父牛	85	72	284	65	24	520
種雄牛の母牛	45	30	2,261	65	19	5,719
評価された種雄牛数			3,575			12,997
選抜された種雄牛数			450			3,066

表２では、種雄牛を生産する父牛と母牛の選抜の違いから、米国における従来の後代検定とG選抜を比較しています。父牛と母牛の選抜時の月齢は後代検定において各々72ヵ月齢と30ヵ月齢ですが、G選抜では各々24ヵ月齢と19ヵ月齢になり、世代間隔が大幅に短縮されています。父牛の選抜に使用した遺伝評価成績の信頼度は後代検定だと85%ですが、G選抜では65%に低下します。しかし、母牛では信頼度が45%から65%に上昇します。G評価成績の信頼度が父牛と母牛で同じなのは、SNPからの情報量が同じだからです。

後代検定では、3,575頭の候補種雄牛の中から450頭の種雄牛を選抜して一般供用します。一方、G選抜では12,977頭のG評価成績を推定し、3,066頭のGヤングブルを選抜します。Gヤングブルの供用は検定済種雄牛と比較して多過ぎるように思いますが、酪農家の利用の段階で一定の選抜が加わり、G評価成績が高いヤングブルは自然に娘牛数が多くなると考えられます。また、種雄牛生産のための父牛と母牛の組み合わせが増えたことで、G選抜では酪農家が選択できるヤングブルの遺伝的バリエーションも豊富になってきました。米国におけるホルスタインの改良量はGヤングブルを利用することで後代検定と比較して52%高くなると予測されています。

今後、後代検定はどうなるか

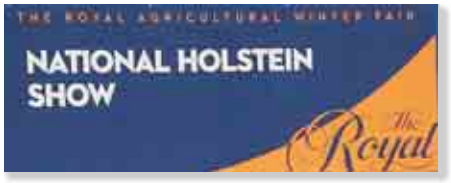
G選抜が優れているならば、後代検定はどうなるのだろうか、Coburn氏に将来の種雄牛生産について聞いてみました。「後代検定は後代(娘牛)の記録を利用して種雄牛の遺伝的能力を推定し、それに基づいて一般供用の種雄牛を選抜します。G選抜が軌道に乗り始めると、後代検定の結果を待つまでもなくGヤングブルの段階で選抜されてしまいます。それ故、後代検定は、娘牛データの収集、G評価値の検証、G評価値の精度向上という役割に代わっていくであろう」と述べています。

Gヤングブルの販売精液は、従来の後代検定のサンプリングよりも多くの娘牛を確保できるので、より早く検定済評価成績の信頼度を向上させます。また、選抜の結果として生じる改良量、すなわち遺伝的トレンドの検証には、後代検定の結果に基づく情報が必要となります。経済的に重要な新しい形質を改良形質として採用する場合も、実際の記録を利用した基礎的分析が必要ですから、後代検定の成績が参考になります。そのように考えると、現在のように完全待機型の後代検定は存続できなくなるかもしれませんが、形を変えても後代検定は存続していかなければならないと考えられます。

(改良部長　河原)

第42回 組合員海外酪農視察研修

カナダ・ホルスタイン酪農視察研修



昨年11月に行われた『第42回組合員海外酪農視察研修』(2013年11月５日～11日の５泊７日、デーリィマン社との共催）に同行させて頂きましたので、その概要を報告いたします。

11月５日

北海道からの参加者14名は、13時に千歳空港に集合し柾谷参事、西本専務（デーリイマン)、新澤常務（道授精師協会）よりそれぞれ挨拶をいただき、寒河江 正耕氏（標茶町）に団長を依頼して、成田空港へと向かいました。成田空港で日ホ本局國行証書課長と合流し、ツアー参加者15名と添乗員１名の16名が揃ったものの自己紹介する間もなくトロント行きに搭乗となりました。約12時間のフライト後、カナダの入国審査を終えるとそこには現地ガイドのテリー鈴木氏が「カナダ酪農視察」と書かれたカードを持って私達を出迎えてくれており、バスに乗るために外に出ると鉛色の空で薄暗く感じられました。

バスでテリー氏の流暢な説明を受けながら（中には子守唄に聞こえた人がいたのは、言うまでもないと思いますが）約２時間ゆられ、ナイアガラに入る頃には真っ暗となりました。「ライトアップされたナイアガラの滝」と説明を受けたのですが、霧のせいなのか、雨が降っているのか光が雲に吸い込まれているような景色を車窓から眺めながら、ホテルへと向かいました。ホテルの前のレストランで夕食をとりながら、自己紹介を行いましたが、機内で出された三度の食事のためなのか、時差なのか、あるいは周りが外人（私たちが外人なのですが）で気後れしたのか早々にレストランを後にし、ホテルへ戻る人、ライトアップされた滝を見に行く人に分かれて最初の夜を過ごしました。

11月６日

夜中に何度も目を覚まし寝返りを打っていたのに、けたたましいモーニングコールで起こされ、カーテンを開けると目の前には、川の流れとそれが滝となって落ちていくが、その落差による水しぶきが雲のようになって湧き上がり、滝を隠している景色が見えた。これがナイアガラの瀑布だ。

見とれる間もなく身支度し、朝食を済ませテリーさんと合流しナイアガラの滝を見学。上流の水門が閉じられているのにこの水量、水門が解放されたらどんなことになるのかと思いながら見とれていました。

次は牧場研修です。

〔サミット ホルム ホルスタイン〕

搾乳頭数380頭
出荷乳量 4,700t
(12,500㌔/１頭)
乳代75c/１L、クオーター制度により、超過分の乳代は25c/１L。初産の分娩月齢は22ヵ月で乳量１万㌔を目標として管理している。

分娩間隔は12.8ヶ月（約385日程度か？）発情管理は歩数計によるコンピュータ管理、平均授精回数は2.6回　分娩後55日くらいから授精し、70日経過しても発情の来ない牛は治療する。供用種雄牛はカナダ75%、アメリカ25%くらいの比率でヤングサイアーも全体の25%程度使用しているが、すぐに新しい（GLPI・GTPI）雄が出てくるため、入手できる高いインデックスを数種類使うが、子牛のゲノムテストはしていない。搾乳は12頭ダブルのパーラーで３回行い、１時間当たり100頭のペースでフルタイム２人パートが９人の11人が他の作業と合わせて従事する。フリーストールは増築して395頭分のベッド。ベッドには砂が

敷かれており、この砂で牛の調子が良く５群（泌乳３群、ドライ２群）で管理している。現在保育舎を建築中で次に育成舎を考慮しており育成舎が

育成舎

育成舎内部

両側が観音開きで、中央部分を上下に反転させて、仕切る

完成したら、就農当初の牛舎は取り壊すと話しており、すでにスチールサイロ１基は取り壊したと話していた。

〔**フラドン ホルスタイン**〕

兄弟とそれぞれの息子の４人で２か所の牧場にて経営。交配種雄牛はタイプを重視し能力は次。今はアップル、ウインドブルツク、アフターショックなどでヤングサイアーもファミリーが安定し体型の数値の高いものを使っているが、最終的には分娩し乳房を見てからその後再度使うか判断する。主なファミリーは　①ジョデイ　②チーフアデイーンに、購入した数頭の牛のファミリーとなっている。平均能力は10,000㌔　F4.2%　P3.4%　これらのファミリーの受精卵の販売も行っており、収入の比率は乳代75%、個体・受精卵の販売が25%

SSジョーデイー
父 セプテンバー
母 ルドルフ ジョデイ

ヤングサイアーによる娘
父 シンパチコ（GTPI2240）
母 ショトル ジョデイ

〔**ボスデール ホルスタイン**〕

（ホルスタインと豚の飼養農家）

飼養頭数250～300頭　搾乳頭数150頭　平均能力10,500㌔　4.2　3.2　牛舎は対頭式が２列で計４列、搾乳は１日２回　16台のユニットを２人で行い約２時間程度、通路には大きな扇風機が１列に５台で音は静かと話していた。牛群はEX52頭　VG125頭　G20～30頭　供用種雄牛はシド、フィーバー、ウインドブルツク　などでヤングサイアーは使っていない。

IDEE　LUSTTERの孫
ゴールドウインの受精卵ありますと名号板に書かれていた

GLPI3035　2011．9．3生まれ
父 ウインドブルツク

〔**クォリティ ホルスタインズ**〕

オーナーのポール エクステイン氏が待ち構えており、テリー氏と話したと思ったらすぐにいなくなりました。テリー氏によると、ローヤルの会場へ（７頭出品）向かうところで、別に我々を待っていた訳ではありませんでした。

写真は1998．７月生まれ16歳のカールトン パム（EX-97）　ここ２年間は採卵しても採れずペットになっている、と鳥取県からの実習生が話していた。

この後、ローヤルの会場近くを通りトロント市内のホテルへ向かうこととなりますが道路が混んでおり、普段なら45分程度で着くと話していたが、約２時間かかり、テリー氏は次の日本人ツアーの人たちの出迎えに間に合わないと嘆いていました。

11月７日

いよいよローヤル ウインター フエアです。レッドアンドホワイトは９時から始まるため、ホテルは８時出発の予定が道路事情でバスは20分遅れで出発です。しかしバスは裏道を走り20分ほどで会場に到着しました。テリー氏が前述の別の団体のツアーガイドとして行ったため、本日は在カナダ

歴25年の江田氏に代わりましたが、その江田氏に「ナイスドライブ！」と声を掛けた私たちに、「Have a good-day」と返答しながら二の腕をたたき、自慢していました。

会場に入るためには23ドルが必要なのですが、あらかじめテリー氏が手配をしてくれており、我々はインター ナショナル ビジネス センターから無料で入場できました。しかしながら私の知人は、その入口でチケットを買ってくれと言われて、一緒の道内酪農家の人と入場チケットを購入し「去年までは無料で入れたのに」と嘆いていました。

ビジネスセンターに入ると野澤組とそのツアーで来た日本の人達がいましたが、早々にショウの会場へ向い席を確保し場内を見渡すと、シーメックスの娘牛展示、その奥にセール オブ スターの看板を見つけ駆けつけました。

娘牛展示

88点ブラウラーの娘

セール牛繋留所

セール牛はまだ揃っていません

名号板はダブルクリップで止めてあり、販売者が横にCMの看板をつけているだけの、シンプルな作りとなっています。牛床は、フロアから18cm位高く設置された木製で外枠は黒塗りの木で更に牛床より１cm程高くなっています。

昼過ぎの飾りつけされた名号板

セールの会場を後にして共進会場（リング オブ エクセレンス）に戻ろうとしたときに毛の長さを確認する場所を見つけました。観覧席から見えないようにカーテンで仕切り、ライトが当てられています。翌日の会場（リコー コロシアム）出品牛入口でもチェックされていましたが、その時は何やら言い争っているように見受けられたものの、入場していきました。

席に戻って、ショウの見学です。この日はレッドの全クラスとナショナルショウの１部２部がリング オブ エクセレンスで行われます。素敵な名前の会場ですが、建物の一部をプラスチックの柵で仕切り、観覧席を設置しただけで、リングの中に柱があります。レッドの審査員はプリンスエドワード島のBloyce Thompson氏とカタログに書かれています。その時は「どこかで見た名前だな？」ぐらいしか考えていませんでした。思い出したのは翌日の夕方、５万㌔以上のクラス、イーストサイド ルイスデール ゴールド ミツシーを見ている時にミツシーの繁殖者と同じ州の同じThompson氏、ひょっとしてミツシーの繁殖者？（場内アナウンスでは説明されていたと思われますが）確認が取れたのは帰国してからでした。

レッドの出品頭数は少なく名簿の番号は92で終了しており、出品頭数が多いのは１部だけであとは１桁の頭数で、１頭だけというクラスが２部有ります。昨年のツアーは、午前中トロント市内観光、午後からショウの見学だったと聞いており、それも良かったかなと考えながら見ていました。しかしながら上位入賞牛を名簿と照らし合わせて見ていると、１頭のファミリーに注目する事となりました。

ルツクアウト エルム ブリツジ リル レツド

まずはサマーイヤリング（6月1日～8月31日生まれ）で1位になったルツクアウト エルム ブリツジ リル レツド、彼女の母が4歳クラスに母の妹が2歳シニアクラスに、そして祖母が成年級にエントリーされています。

母の妹2歳シニア1位
ルツクアウト エルムブリツジ レディ ルージュ

母4歳クラス1位・グランドチャンピオン
エルムブリツジ ルツクアウト レディ イン レツド

このファミリーを中心に見ておりますと、まずはジュニアチャンピオン戦、残念ながら5頭のピックアップに入れませんでした。次に母の妹レディ ルージュのインターミディエイト戦、ここも残れませんでした。最後はグランドチャンピオン戦です。4歳クラスのレディ インとその母成年級のラバブル レツドがピックアップされました。

グランドチャンピオンには4歳クラスのレディ イン レツドそしてオーナブルメンションに、祖母のラバブル レツドが選ばれました。

祖母 成年級1位・オーナブルメンション
エルムブリツジ FM ラバブル レツト

〔Sale of Stars〕

セール開始は17時と案内されておりますが、17時になってもセール舞台は組み立てができておらず、帰りはタクシーですが18時と決められた最終組の出発時間を30分遅らせて見学です。

結局、セールは18時10分前に開始され左側のカーテンの間から1号牛が登場しました。写真の牛は2013オータムオポチュニテイで2歳シニア1位そして、リザーブインターミデエイトを獲得したアフターショツクの娘牛です。13万ドルまでは順調でしたが、ここでCMが左の人から入ります。何を説明しているかは、理解できませんが一生懸命話しています。セリ人（右側）は再スタートのタイミングを見計らっています。結局この牛は15万ドルでセリ落とされました。セールの平均価格は19,344ドル最高は19万5千ドルでLot 6 Cのレッドで、この牛は11月13日のゲノム評価でGPLI 3142、GTPI2584と世界でNo 1のレッドキャリアと名簿の追加分に記載されております。

カーテンの右側から退場です

11月8日

ナショナルショウは場所を移して、リコーコロシアムという普段はアイスホッケー、そして昨日はホースショウが開催されたところですが、リングサイドが無く観覧席から見下ろすしかありません。前日に2クラスの審査が行われており、3クラス目からの審査となりました。未経産はゴールドウインの娘が2クラス、またゴールドウインの息子であるアツトウツドの娘が2クラス、他にウインドブルツク、スタンリーカツプ、そしてレジナルドの娘がそれぞれ1クラスの1位となりました。

ジュニアチャンピオン（父レジナルド）

食事をとる間もなく、経産牛が始まりました。当歳泌乳クラスですが、入場と同時に目を引く牛がいます。結果的にはクラス1位となった、シドの娘コンビヘブン シド モニカでした。経産牛の最初のクラスのためか解りませんがこのショウの

中でインターミディエイトやリザーブよりも私の記憶に残る１頭になっている事は間違いありません。

コンビヘブン シド モニカ

３歳シニア１位　インターミディエイトチャンピオン
アインガース アドベント バンビ

２歳シニア１位　リザーブインターミディエイト
チヤーウイル アテイツク マーシー

４歳クラスと成牛クラスは見ごたえのあるクラスでした。４歳クラスを制したのは前月マジソンのワールド・デーリイー・エキスポ（ＷＤＥ）で２位に甘んじたロブロツク　ゴールドウイン　キヤメロン、同じＷＤＥで４歳級１位・リザーブ・シニアそしてリザーブ・グランド・チャンピオンとなった、モニークにリベンジを果たすことになりました。

１位キヤメロン　グランドチャンピオン

２位モニーク　リザーブ・グランド

審査員のCROWLYとアシスタントのDONNANがこの日の最後に４歳クラスの２頭をグランドチャンピオンとリザーブグランドに選ぶことになるとはこの時点では想像もできませんでした。

成年クラスはＷＤＥの同じクラスで１位となりシニアとグランドの両チャンピオンのマヤ　ゴールドウインがファーストピックアップの最初に呼ばれました。２番手に呼ばれたのはＷＤＥでは散々だった、リラ　ジーにゴールドウインのゴールドウイン　ライラ、ＷＤＥ３位のジエシカ　５位のブリタニーを押しのけて、２番手です。アシスタントと相談した審査員は２番手のライラを先に行くように指差した瞬間、場内に歓声が響き渡りました。

グランドチャンピオン戦を控えて

成牛クラス１位
カルブレツト ゴールドウイン ライラ

５万キロ以上のクラスには、2011年のＷＤＥとローヤルでグランド　チャンピオンのミツシーが復活しました。リスター　リンゼイや見学に行ったクオリテイのブリツツ　フランを抑えて堂々１位です。しかしながらこの後のチャンピオン戦はピックアップされることなく、入場の時のスポットライトのみでミツシーの今シーズンのビッグショウは終了しました。

イーストサイド ルイスデール ゴールド ミッシー

チャンピオン戦前

ミッシーのクラスが終わると、ツアーの目的でもあるプレミアエキジビターのプレゼンターとして団長の寒河江氏と本部席に向かいました。

会場ではブリーダーズ牛群の審査が行われていましたが、本部席後方ではチャンピオン戦を控えたミッシーやライラが待機しており、寒河江氏と見とれていると突然我々が寄贈するプレミアエキジビターの盾を持った女性が叫んできました。今はブリーダーズ牛群の審査で、その後チャンピオン戦、そしてエキジビターの表彰と思いきや、ブリーダーズ牛群で１位となったFerm Jacobsがプレミアエキジビターも獲得したとのことで慌ててミッシーのそばから離れ、写真撮影の中に紛れ込みました。

当組合プレミアエキジビター盾贈呈　右：寒河江氏と筆者

チャンピオン戦の入場は、場内の照明が消されスポットライト１基が本部席横を照らしています。アナウンスと共にインターミディエイトチャンピオンがそのスポットライトを浴びながらリング中央に進んで行き、次にリザーブインターミディエイト、４歳クラス１位、２位と順に続いて入場し最後の５万㌔以上クラスの２位が入場して館内の明かりが点けられます。しかしながら、本部席後ろから見えるのはここまででした。リングではピックアップが始まっているようですが、その場所は遠く、加えて私の前には巨漢で一杯です。持っていたビデオを巨漢の間から回しても、写っているのは人の後頭部と忙しく動き回る本部席の人、その後ろにチラチラと牛が見えるだけです。あきらめて、雰囲気だけを味わい電光掲示板でキヤメロンがグランドチャンピオンになったことを知りました。

でも、何とか写真をと思っている私にチャンス到来の１枚です。

この後ツアーの人たちの所に戻り、寒河江氏とライラ（成牛クラス１位）やミッシーそしてキヤメロンを間近で見たと自慢したのは言うまでもないと思います。

11月９日

トロントを後にしバンクーバーへ、日本に近づいているのに時差はまた増えています。

エリザベス公園では結婚式が有り、なが～いリムジンやロールスロイスが駐車されていて、景観よりもみな車の写真を撮っていました。

バンクーバー市街、港の近くのトーテムポール等を見学後ホテルへ向かい、夜はフィギュアスケートの浅田真央がバンクーバーオリンピックの時に企画した「MAOロール」という寿司が置いてある店に行き、少しだけ時差ボケから解放されたような気になりました。

11月10日

バンクーバーから成田行きは昼過ぎの出発の為、朝ホテル近辺を散歩すると、不思議な？建物が、いくら地震がないとはいえ、太い柱に３階部分からビルが建てられています。思わず写真を撮っていると、犬を連れて散歩している人にIt's a beautiful ！と声を掛けられビルを撮っていた私は、カメラを慌てて左側の紅葉したカエデに向けて、Yeah! と答えていました。

昨年のツアーはバンクーバーからの出発が遅れ、成田での乗り継ぎが出来ず成田に宿泊したと聞いていましたが、今年は何事もなく予定通りに帰国し、成田で國行氏・添乗員の阿部氏と別れ帰道いたしました。このような機会を与えてくださいました組合および組合長に感謝いたします。　　（経済部流通担当次長　菅原）

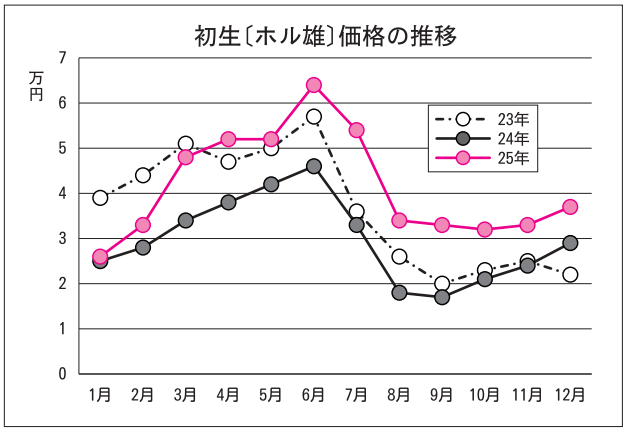
北海道ホルスタイン農協　家畜市場成績

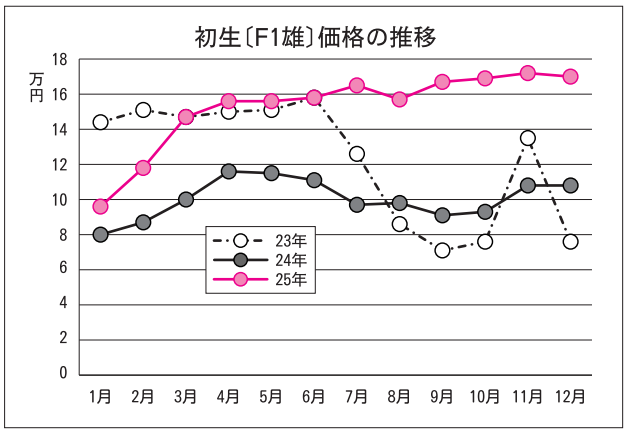
初生〔ホル雄・F1雄・F1雌〕価格の推移

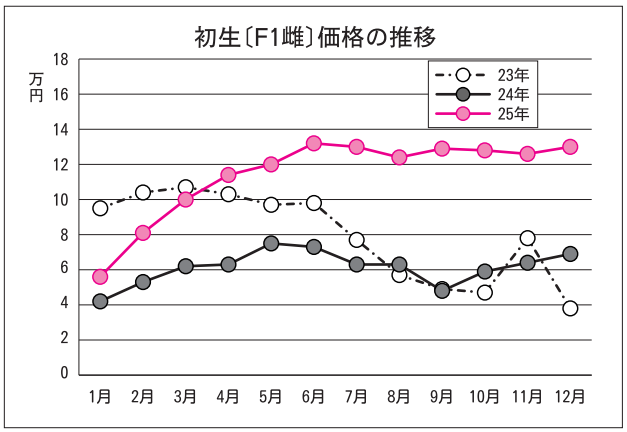
（単位：万円）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ホル雄	2.6	3.3	4.8	5.2	5.2	6.4	5.4	3.4	3.2	3.2	3.3	3.7
F1雄	9.6	11.8	14.7	15.6	15.6	15.8	16.5	15.7	16.7	16.9	17.2	17.0
F1雌	5.6	8.1	10.0	11.4	12.0	13.2	13.0	12.4	12.9	12.8	12.6	13.0

（注）価格は各月でセリが成立したものの平均価格です







最近の家畜市場成績（１月21日開催）

種　類	内　訳	出場頭数	成立頭数	最高価格	最低価格	平均価格
乳用牛	育成牛	16 頭	10 頭	325,500 円	217,350 円	277,515 円
	初妊牛(88%以上)	2	2	496,650	445,200	470,925
	初妊牛(88%未満)	—	—	—	—	—
	経産牛	—	—	—	—	—
初生犢	ホル雄	103	98	63,000	1,050	34,393
	ホル雌	—	—	—	—	—
	ホルフリー	3	3	10,500	5,250	7,000
	黒毛雄	2	2	346,500	284,550	315,525
	黒毛雌	—	—	—	—	—
	F1雄	45	43	248,850	63,000	176,717
	F1雌	42	40	173,250	10,500	118,834
	乳用種雄	1	1	1,050	1,050	1,050
	乳用種雌	—	—	—	—	—
	肉専用雄	—	—	—	—	—
	肉専用雌	—	—	—	—	—
肉用牛	1年以上ホル雌牛	78	78	274,050	42,000	160,017
	その他肉用牛	42	42	531,300	17,850	333,825
馬		—	—	—	—	—
緬羊・山羊		—	—	—	—	—
合　計		334	319	531,300	1,050	146,065

乳牛予想相場表

（平成26年２月予想）

規格	月　齢	中	上
血統濃度88%未満	6～8カ月	25～30万円	28～33万円
	9～11〃	28～33	30～35
	12～14〃	28～33	30～35
	初妊牛	47～52	50～55
同上概ね88%以上	6～8カ月	25～30	28～33
	9～11〃	28～33	30～35
	12～14〃	28～33	30～35
	初妊牛	47～52	50～55
成績証明娘牛	6～8カ月	25～30	28～33
	9～11〃	28～33	30～35
	12～14〃	30～35	32～38
	初妊牛	50～55	55～

（注）初妊牛は４～５月に分娩するもの。

ひと こと

30歳から健康管理のためにスポーツジムに通っていましたが約８年が経過した頃、健康という曖昧な目標のために、ただ体を動かしていることに飽きてしまいやめてしまいました。

競技会があるような種目で、高齢になっても楽しめる運動はないかといろいろ考えた結果、幼少から15年ほど習っていた空手道をもう一度やってみようと思いつきました。

空手道といっても大きく２つの分類があり、１つは、K－１などで見られる「フルコンタクト空手」で攻撃を当てることで勝敗を決める極真会に代表される流派。もう１つは、学校教育として取り入られている“寸止め”によるポイントで勝敗を決める「スポーツ空手」といわれる伝統空手に分けられます。

どちらに入門するか迷いましたが、顔や体にアザやケガを拵えながら職場や出張に出ることは避けたかったので以前と同様、伝統空手を選びました。

昔は出場する試合にはほぼ入賞していましたし、地元の町道場の間では名の知れた存在でしたので、20年のブランクも過去のスキルで何とかなると思って初練習に臨みました。しかし、練習開始から30分で息が上がり、酸欠状態になってしまいました。

それでも週一回の練習を休むことなく通い続け半年が経過した頃、先生から許可が下り大会に挑みました。気合を入れて臨んだ試合の結果は、極度の緊張から全く思うように動けず一回戦負け。これは過去にも経験のない惨敗です。

試合終了後は落胆が大きく、負けた原因がわからず、周りに原因があるのではと考えることもありましたが、冷静になってみると原因はすべて自分にありました。

練習に対しても、どこか「自分は昔と同様に動けている」と過信して手を抜いていたことに気付いていながら、実力以上のパフォーマンスをしようとしたことにより体と心のバランスが保てなかったことで、極度の緊張につながったのです。

やはり、日々コツコツと自分と向き合いながら練習することで、自信になり成果となって返ってくるものだと実感しました。

これは、仕事に対しても同様で「日々の業務を一つ一つ正確に処理することで血統登録の精度の保持につながり、日々勉強することで自信となり外部や周りの人達にも説明ができる」と再確認できる良い機会でした。

昨年の戦歴は市民大会で優勝３回、準優勝１回、一回戦敗退２回とまずまずでしたが、今年の目標は公式戦入賞と「全国マスターズ出場」です。長男や来月生まれてくる次男のためにも「文武両道、強くて格好いい父ちゃん」を目標にこれからも精進していきたいと思います。

もうすぐ２児のパパ

頒価100円（組合員の購読料は賦課金に含まれています）